

## フィレンツェ伝統マーブル紙 体験コースレポート

フィレンツェのお土産として人気のある「マーブル紙」。「フィレンツェ紙」とも呼ばれ、ルネッサンス時代から、フィレンツェの代表的な伝統工芸の一つとして、その製法は今でも大事に受け継がれています。やさしい色合いのコンビネーション。色の混ざり合う微妙な曲線は、全て手作業で作り出されるため、まったく同じ模様を作り出すことが出来ないそう。その一枚が世界で唯一の「一枚」となります。



その伝統工芸の「マーブル印刷」のレッスンを受けることが出来る工房が、フィレンツェのサンタ・クロッチェ教会の近くにあります。イタリア人の女性が2人で仕切るこの工房には、世界各国の生徒たちが各種アートコースに通ってきます。今日のレッスンには、日本人の生徒さんが2名いらっしゃいました。

現在語学学校に通うお二人は、フィレンツェ滞在中に「伝統工芸を通じ、将来のプラスになることを」と、フィレンツェ伝統のマーブル印刷を

勉強しているようです。

レッスンを続けていると、フィレンツェのマーブル紙を扱うお店に立ち寄った際、マーブル紙の良さ悪しを、見分けることが出来るようになるとか。

実際にその技術に触れ、自分も職人の目線で、マーブル紙を見るようになったそうです。

お二人ともレッスンを始めた時期が違うため、それぞれのレベルに合わせた作業をしています。

レッスンを始めたばかりのあかりさんは、今日はマーブル模様を作るために使用する「くし」を作っていました。自分専用の「くし」を作り、日本に戻ってからマーブル印刷を続けていくことが出来ます。板に芯をはめていく溝を彫っていましたが、真剣そのものです。



横ではもう一人の生徒さん、まなみさんが、今まで作成したマーブル紙を使って、手作りアルバム作りに取り組みしていました。

まなみさんが今まで作ってきたマーブル紙。模様も様々です。



とっても綺麗！

お気に入りのマーブル紙を選び、小さく切り、パッチワークのように型の表面に張り合わせていきます。もう完成間近です。

出来上がったら、張り合わせたマーブル紙の表面にニス塗りを塗り、つやを出すそうです。

一枚一枚、のりで丁寧に貼り合わせています。なかなか根気のいる作業です。

しばらくすると、先生があかりさんに「気分転換にマーブル印刷をしよう」と提案しました。ずっと溝彫りをしていましたから、肩もこるでしょうね。

まずは白い紙で腕ならし。印刷の工程に、私も興味津々です。



しばらくすると、先生があかりさんに「気分転換にマーブル印刷をしよう」と提案しました。ずっと溝彫りをしていましたから、肩もこるでしょうね。

まずは白い紙で腕ならし。印刷の工程に、私も興味津々です。

まず紙がきっちりと収まるくらいのトレイに、液体のりを入れておきます。この液体のりは濃度があり、さらっとしていて粘度はあまりありません。先生曰く、イタリアでは壁紙を張る時に使用する糊だそうです。

この液体のりにインクをのせていきます。糊の濃度が高いため、インクをのせると糊の表面に浮きます。大体マーブル印刷に使用する色は3～4種類までだそうです。

木の棒にインクのついた筆を叩きつけて、雫を糊の上に落としていきます。全ての色をのせた後、色の足りないところには竹串で色をのせていきます。

色が決まると、次は竹串でジグザグに流し、模様を付けていきます。このジグザグ模様を細かく入れるほうが、仕上げがきれいになるそうです。

次に「くし」で縦に流し、模様をいれます。こんなにきれいな模様が出来上がりました。

ふちに着いたインクの汚れをふき取り、上に紙を乗せ、静かに手前に引き上げると・・・糊の上のインクはなくなり、紙にきれいに印刷されています。

お見事!!!

印刷できた紙は、板の上に乗せ、乾燥させます。



お次は色紙にマーブル模様を付けていきます。色紙は白い紙と違い、インクの色がそのまま発色されないのが特徴です。想像しなかったような色合いになることもあるそうで、紙を引き上げる度に驚きの連続だそうです。



使用するインクは10種類。緑、赤、青、黒、オレンジなどを好みの組み合わせで配色していきます。

印刷の工程は最初と同じ。木の棒にインクの着いた筆を叩きつけ、雫を糊の上に落としていきます。雫を落とす量なども力加減で調節。





こんな風に水玉模様ができあがります。

次はこの水玉模様 जिグザグ模様を入れていきます。「くし」を縦に流し、模様をいれます。



もう一つ、別の「くし」を上からジグザグに流していくと・・・ガイドブックなどで目に留まる、代表的なマーブル模様が目に飛び込んできました。先生曰く、この模様は「クジャク模様」と呼ばれるそうです。綺麗！！！！

インクの上に紙を乗せ、ふちの汚れをふき取り、慎重に紙を引き上げていきます。ドキドキの瞬間です。どんな色が出てくるかな？

青色の紙を使ったので、出来上がったマーブル紙は緑と紫の、コンビネーションが美しい一枚となりました。お見事！！！！



さて、一方まなみさんですが、もう作業も終盤に差し掛かりました。表面を全て張り合わせたら、ふちにはみ出た紙を切り落とします。

「出来た！！！」まなみさんの嬉しそうな声が聞こえました。



各面、美しいマーブル紙で装飾された、アイデアいっぱいのアルバムは、背の部分に布が貼りあわせられ、綺麗な糸で閉じることの出来るかわいらしいデザイン。今まで製作したマーブル紙を入れ、フィレンツェでの思い出のアルバムになりそうです。「日本に戻ったら、お母さんにこのアルバムを見せてあげよう」と、まなみさん本当に嬉しそうです。



あかりさんも印刷を続けています。

色使いにも人柄が表れるのでしょうか。繊細で優しい色合いが見られます。クジヤク模様を作るのは、見ているよりもかなり難しいらしく、先生のアドバイスを受けながら、やっとコツをつかめたようです。あかりさんも嬉しそうです。

あかりさんは再び「くし」の製作へ。まなみさんは時間が少し余ったので、次の作品の準備を始めました。

次の作品は「ねずみ」のお人形。ねずみ型に小さく切ったマーブル紙を貼りつけていくそうです。これも根気が要る作業ですね。紙を水に軽く浸し、やわらかくした後、ねずみの型にあわせて貼り付けていきます。どんな出来上がりになるのでしょうか。楽しみですね。



---

あかりさんとまなみさんのお二人は、24時間コースに通っているそうです。

1日2時間のレッスンなので、合計12回のレッスンとなります。

この工房では、生徒さんの要望、滞在期間にあわせた短期カルチャーコースを各種紹介しています。

テーマとなる作品も、期間によって難易度を合わせていくそうです。

例えば1日コースだと、鉛筆。丸い鉛筆の表面に、自分が印刷したマーブル紙を貼り付けます。その他、3日コースだと、ミニアルバム(10x15cm)にマーブル紙で装飾をすることが出来るそうです。

---